

平成30年度北空知地域住民フォーラム開催結果（評価）

項目	内容
1 現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に深川保健所主催で住民フォーラムを開催、今後も在宅療養や終活について自分の問題として考えられるような住民への普及啓発は必要であるという結果となった。 ・北空知地域は、在宅医療よりも病院や施設に入院・入所し最期をむかえることが多い地域。患者本人、家族の在宅医療に対する理解、覚悟も必要。家で亡くなりたくない高齢者もいるが、病院で安心したい家族の思いもある。単身、老老介護の問題もある。 ・このため、本協議会においても、平成29年度に北海道看護協会の事業を活用し深川市を初めて開催、以降各市町持ち回りで開催することとなった。
2 目的	北空知地域の住民が自分や家族の老いや死を自分自身の問題として考える機会とする
3 対象	北空知地域在住の住民 地域住民の在宅医療・介護を支える支援関係者等
4 日時	平成30年10月20日（土）13：30～16：00（30分延びた）
5 場所	妹背牛町 わかち愛もせうしひろば
6 出席者	97名（一般参加者の事前申込34名） （妹背牛町63名、深川市20名、秩父別町2名、北竜町7名、沼田町2名、その他3名うち一般63名、支援関係者34名）
7 内容	<p>（1）北空知地域の在宅医療・介護の取組紹介</p> <p>「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」 紹介者 北空知地域医療介護連携支援センター事務局長 三ツ井隆博さん</p> <p>「自宅で安心して暮らすために～訪問看護の取組」 紹介者 深川地域訪問看護ステーション所長 原田順子さん</p> <p>※北空知地域で在宅療養が必要になった時、どんな支援ができるか、北空知地域の支援関係者から事例を紹介しながら情報提供</p> <p>※開会前に「ライスパワー体操」を上映しセンターの取組を紹介</p> <p>（2）講演「地域包括ケアシステムの構築を目指して ～とともに暮らしともに支え合う地域づくり～」 講師 北星学園大学社会福祉学部教授 杉岡直人さん</p> <p>（3）意見交換 コーディネーター 妹背牛町健康福祉課長 河野和浩さん ※在宅医療・介護の取組紹介と講演を聞いての質疑応答、感想・意見交換</p>
8 結果	<p>（1）取組紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北空知の将来予測や医療・介護の状況、広域連携の必要性の説明。平成28年に「北空知地域医療介護確保推進協議会」が設立され、「チーム北空知」を目指しさまざまな取組が行われていることを紹介した。取組内容をパンフレットやパワーポイントを用いて実際の場面の写真を見てもらうことで、わかりやすく広く知ってもらうことができた。 ・訪問看護の取組では、本人と家族の願いに寄り添い、支援スタッフが連携し、家族に見守られながら人生の最後を自宅で迎えた3件の事例の紹介があり、訪問看護の幅広い活動と自宅で最後を迎えることをわかりやすく伝えることができた。

(2) 講演

・ともに暮らしともに支え合うこれからの地域づくりとして、医療介護連携の取組み、支え合うコミュニティづくりが重要となることを北空知の実態や他市町の事例をとおして紹介があり、北空知で必要な地域づくり、課題等を考えることができた。

(3) 意見交換

・民生委員、老人クラブ、サロンなどで活動されている方から、外に出て活動することの大切さや高齢者の本音をもう少し聞き出したいなど意見や感想が述べられた。

・開催地の河野健康福祉課長がコーディネーターを務めたことにより、妹背牛町としての活動を踏まえての話もあり、参加者からの意見、感想も引き出され、フォーラム全体がまとまった。

(4) アンケート結果：回答者数60名 配布数97名 回収率61.9%

・北空知の取組紹介について知ることが出来た、まあまあ知ることができたと回答した人は59人で98.3%

・講演は参考になった、まあまあ参考になったと回答した人が56人、98.3%

・自分自身の人生最期を考えることが出来たが半数以上の47人、82.5%

家族の人生の最後について考える機会になった9人、15.8%で、自分自身のことを考えた人が多かった。

・自由記載では、事例紹介がわかりやすかった、命の向き合い方に考えさせられた、今日は良いお話を聞いてよかった、今回のようなフォーラムを年1回は開いてほしい、高齢化がすすむ地域では、住民の力、つながりが大事だと再認識したなどの記載があった。

・参加のきっかけはポスター・チラシをみたが最も多く26人、38.2%、在宅医療・介護について関心があったが23人、33.8%。

(5) まとめ

・早めに来場された方のために、地域リハビリテーション活動支援事業で発案した介護予防体操「ライスパワー体操」のビデオを上映し紹介。実際に体験してもらうことができ、待ち時間も持てますことなく過ごすことができた。(1時間前に来られた方もいた)

・事前申込みは少なかったが、当日は申込み数以上の町民の方の参加があり、多くの方が在宅医療や介護、今後の自分や家族のことに関心があることがわかった。

・アンケートの結果からもテーマや目的である人生の最後をどう迎えたいか、送りたいか自分自身の問題として考える機会となったことがわかる。

・講師も北空知の実態を踏まえて講演していただき、高齢化がすすむ地域での住民の力やつながりの大切さが伝えられた。

・流れとしても、副町長の挨拶をはじめ、支援センターの取組、訪問看護の取組、講演まで、家族などの人生の最後に関する話であり、より地域で在宅でどう暮らしていくかということが伝えられる内容でよかった。また、事例が多かったため、わかりやすく伝わった。

・終了時間が超過したため、余裕のあるプログラムづくりが必要だった。

・今後も支援センターと訪問看護の取組は北空知の現状を伝えるために有効で、次年度以降も事例を中心に伝えていくのがよいのではないかと考える。

(6) 次年度以降開催地

2019年度：北竜町 2020年度 秩父別町 2021年度 沼田町

(2017年度：深川市)